

#### 4 児童の「できた!」「分かった!」の質を高める学習過程の一場面 (1/7時)

##### 教師と児童のやり取りの詳細

つかむ段階において、2通りで表した式について、式が表す意味を読み取らせ、問題場面との整合を考えさせながら、本時の課題(めあて)を捉えさせていく場面。

※児童が立式したものから、以下の2つの式を取り上げ、児童に気付いたことを発表させていく。



みなさんが考えた中に、2つの求め方がありました。何か気付いたことはありますか？

㊶は式が1つですが、㊸は式が2つです。



答えが違います。どうして、代金が違ってしまったのでしょうか。



$$\text{㊶ } 120 + 90 \times 3 = 630 \quad \text{式が1つ} \quad \text{㊸ } 90 \times 3 = 270 \quad \text{式が2つ}$$

$$270 + 120 = 390$$



(式が1つと式が2つを板書して) たしかに、同じ問題場面を式に表して求めたのに、なぜ、代金が違うのでしょうか？

式が違うからでしょうか。㊸の式と答えの390円は正しいと思います。



私も㊸は正しいと思います。㊶の式が間違っているのでしょうか。



㊶の式も正しいような気がしますけど…



㊸の式は正しいという友達が多いですね。まず、㊸の式を確認してみましょう。㊸の式の  $90 \times 3$  の計算は何を表していますか？

$90 \times 3$  は、パン3個分の代金です。



そして、そのパン3個分の代金の270に120を足しています。120は何を表していますか？

120は、ジュース1本の代金です。



(児童の発言を基に板書して) 1つ目の式で求めたパン3個分の270円に、ジュースの120円を足したら390円になるので、㊸の式と答えの代金は正しいですね。

$$\text{㊸ } 90 \times 3 = 270 \quad \text{式が2つ}$$

パン3個分の代金㊸  
 $270 + 120 = 390$   
 パン3個分+ジュース1本の代金㊸



・式において、何を計算しているのか、それぞれの数何を表しているのかということについて考えさせることは、式を読み取る力を伸ばすことにつながります。全体で共有することができるよう、児童の発言を基に整理しながら板書しておきましょう。



では、式が1つの㊶の式を確認してみましょう。120と90を足して何を求めていますか？

$$\text{㊶ } 120 + 90 \times 3 = 630 \quad \text{式が1つ}$$

ジュース1本とパン1個の代金です。





そして、3をかけていますね。どういうことでしょうか？

それらの3つ分ということだと思います。



(児童の発言を基に板書して) ④の式は、ジュース1本とパン1個の代金の3つ分というのを表しているのですね。

④  $120+90 \times 3 = 630$  式が1つ  
ジュース1本とパン1個の代金の3つ分

あれ！？ちょっとおかしいです！



今、なぜ「おかしい！」と言ったと思いますか？ペアやグループで話し合ってみましょう。

※ペアやグループで話し合わせた後、全体で共有していく。



では、話し合ったことについて教えてください。

問題に合っていないからだと思います。これでは、ジュースも3本買ったことになります。



ジュースを2本多く求めています。だから、④の式と代金が違うのだと思います。



④  $120+90 \times 3 = 630$  式が1つ  
ジュース1本とパン1個の代金の3つ分  
↳ジュース3本とパン3個の代金 X

⑤  $90 \times 3 = 270$  式が2つ  
パン3個の代金⑤  
 $270+120=390$   
パン3個分+ジュース1本の代金⑥



(児童の発言を基に上のように板書して) 友達の気づきがよく分かりましたね。1つの式で表されている④の式が計算していることを考えると、問題場面に合っていませんでしたね。



・式が表していることに着目させながら、式と問題場面が合っているかどうかについて気付かせていきます。児童の気づきを取り上げ、その内容について、少人数で確認させたり、全体で共有させたりしていくことが大切です。



では、④の式のような1つの式に表して、代金を求めることはできないのでしょうか？

式の表し方を変えれば、1つの式にして代金を求めることができるのではないのでしょうか。



問題に合うように表せたら、④のような1つの式にできると思います。



1つの式でも代金を求めることができそうという声が聞こえています。では、それが、今日のめあてになりそうですね。(児童の言葉を基に、めあてを板書する)

め 2つの式を1つの式にして代金を求めよう。



・導入からの流れを踏まえて児童の意欲を喚起するような発問を行い、児童の声を基に本時の学習の課題(めあて)につなげていきます。この後の「見通す段階」では、問題場面(ことばの式)に合わせて、計算の順序を考えていくように見通しをもたせていきます。